

# ぐるっと庄内

第98号 令和6年10月

編集発行 庄内教育事務所 指導課  
〒997-1301  
東田川郡三川町大字横山字袖東7番1号  
TEL0235-68-1982/FAX0235-66-3015

## 新たな気づきと学びを今後の実践に

### <庄内教育事務所における研修>R6.4~現在

- ◆初任者研修
    - 4/23 ・服務について・授業づくり講座
    - 8/5・6 ・体験活動研修
    - 9/12 ・授業参観及び研究協議
    - 10/8 ・授業参観及び研究協議
  - ◆教職2年次フォローアップ研修
    - 5/16 オンライン型研修・庄内の概況と教育課題・特別支援
  - ◆教職3年次フォローアップ研修
    - 6/6 ・生徒指導・二次的な問題の理解と対応
    - 9/10 ・特別活動
  - ◆教職5年経験者研修
    - 9/19 ・幼保こ小ネットワークづくり研修会兼  
教職5年経験者研修
  - ◆中堅教諭等資質向上研修
    - 6/20 オンライン型研修・服務について・道徳の授業づくり
    - 10/3 ・授業参観及び研究協議
- ※ステージアップ研修、教職中長期経験者研修の研修者の皆さんは、校内・校外での研修となっています。

令和6年度において、キャリアステージの始発期、成長期、充実期を迎えられている教職員の皆さんを対象とした研修が、左記のように開催されています。研修では、講義(生徒指導、特別支援教育、道徳、幼小連携、特別活動等)、授業づくり、服務、体験研修、授業研究等を通して学んだことを今後の実践に役立てようと振り返っている方々がたくさんおりました。互いの実践を学び合う貴重な機会にもなっています。



《初任者研修4月 班ごとに話し合い》

### 令和6年度 第2回学校研究ワンアップ研修会

## 教科の本質を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」

第2回学校研究ワンアップ研修会が7月4日(木)にZoomオンラインで行われました。今回は、福井大学教育・人文社会系部門 准教授 小林和雄氏より「本格的な深い学びを実現する授業づくりのコツ」というテーマで、ご講話をいただきました。小林先生からは、「教科の本質に迫る深い学び」について、子どもたちの「思い込み」や「分からない」をもとに、実感を伴った理解につなげていくために、「対話指導」や「振り返り指導」の在り方について教えていただきました。また、研修者の疑問や悩み等に対して、小林先生との対話やグループ協議を行うことで、私たち教師自身も思い込みや何となく分かっていたつもりになっていたことに気付く機会となりました。教科の本質に迫る深い学びを通して、教師も学習者も楽しさを実感し、学力向上に大きく寄与することを御指導いただき、今後の授業改善や学校研究の推進に向けて、さらなる意欲につながる研修会となりました。

### <参加者アンケートより>

本格的な深い学びを実現するために、授業をどう考えていけばよいかについて学びました。まずは、自分がめざす深い学びを具体的にイメージし、ゴールを持っておくことが大切だと感じました。

特に「対話」と「話し合い」の違いについて、これまで分かっていたようで分かっていなかったことに気が付きました。対話を通して互いに完全に分かるまで聞き合うということは、常に自分と違う考えに疑問を持って主体的に学ぶ姿勢につながるので意識して取り組んでいきたいです。

日々のふり返りでは、いつの間にか書くことが目的化してしまっていたことに気付きました。どのようなふり返りを書かせたいのか、いつ書かせるのかを考えることで教師側の授業改善にもつながると思いました。また、ふり返りの内容のよさをほめ励ますことを行っていきたいです。



令和6年度地区教育相談関係連絡協議会【令和6年6月21日(金)】

## 子どもを真ん中に据えて互いの強みを生かす

教育相談関係者の資質向上と相互交流を図り、教育相談活動の充実に生かすために、参集型で行いました。庄内地区では、子どもふれあいサポーター(関係小学校へ2名)、スクールカウンセラー(すべての中学校へ2名、域内の小学校への活動含む)、スクールソーシャルワーク・コーディネーター(2名を関係市町教育委員会)、エリアスクールソーシャルワーカー(庄内管内全域)に配置しています。これらの教育相談関係者が一堂に介し、「チーム学校」の理解の基、各役職の仕事内容と役割について理解を深めました。互いの強みを確認し、子どもたちの支援について意見交換を行いました。

多くの学校で、ケース会議等を行い、子どもたちの支援を考えてくださっています。生徒指導提要にも掲げられている「チーム学校による生徒指導体制」には、児童生徒の抱える複雑化・多様化した問題や課題を解決するために、子どもを真ん中に据えて多様な専門職、それぞれの立場でできることを考えていくことが求められています。チーム学校として機能する学校組織を目指して、専門性を持った教育相談関係者の声をケース会議等にさらに反映させていく必要があると考えます。



### ～庄内特別支援教育研修会～【令和6年9月3日(火)】

## 「教育機関における建設的対話からはじめる合理的配慮」

平林ルミ氏(学びプラネット合同会社代表、東京大学バリアフリー教育開発研究センター特任助教)を講師にオンライン研修を実施しました。主な内容としては以下の2点です。

- ・教育活動で焦点を当てるべきことを捉え、そのための合理的配慮や環境の整備を両輪として推進する。
- ・当事者の意向を聞き、社会モデルの視点から社会的障壁を取り除いていくことを共有していくこと。

具体的な事例やICTの活用についても様々紹介いただきました。

資料提供をいただいた合理的配慮に関する参考資料は、庄内管内小・中学校に9月17日、高等学校に18日付で送付しておりますので、ご覧いただき子どもたちの学びの充実に活用してください。

上記を含めて、特別支援教育関連の情報を2次元コードからご覧いただけます。(→)

◎特別支援教育研修会② 11月14日(木)(オンライン)14:30~16:30

「学習につまずきのある子どもの理解と指導・支援について

—子どもの学びを支える多様なアプローチを探る—

講師 国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 玉木 宗久 氏



## 計画指導訪問校に学ぶ Vol. I

【酒田市立富士見小学校】 (校長 海藤 陽子) 7月19日(金) 訪問

- 学校教育目標 「みずから なかよく たくましく～自分で考えて、行動する子どもの育成～」
- (1) 保護者・地域生活支援協議会等の思いも受け「みずから」に焦点化した取組を展開している。多様な手立てが講じられていることが、自分で考えて行動する児童の姿につながっている。
  - (2) 「積極的生徒指導」を推進し、「特定の課題を意識せず」「全ての子供たちを対象に」「全ての教育活動において進められる」発達支持的生徒指導が、「日常的に」行われている。
  - (3) 日課表の見直しにより、児童下校から勤務終了時刻までに約2時間の執務時間を確保するなど、実効性ある業務改善を推進している。

【鶴岡市立大泉小学校】 (校長 風間 成彦) 9月18日(水) 訪問

- 学校教育目標 「高い志と誇りを持ち、いのちを愛する子どもの育成」
- (1) SWPBS(学校全体で取組むポジティブ行動支援)の取組で、「児童も教職員も承認される」仕組みが構築されており、自己肯定感を高めることにつながっている。
  - (2) 相手意識を持った言動ができるようにするために、誰に向けての発表なのかを意識させたり、友達の考えを自分の言葉で語らせたりするなど、授業を核として適切に指導を進められている。
  - (3) 学校の課題・目標・情報が共有されている。授業研究の機会には互いに学び合い、高め合う姿が見られるなど、チームワークを発揮することができている。